



第81期

株主の皆さまへ

平成12年4月1日から平成13年3月31日

証券コード **5991**

NHKニッパツ

日本発条株式会社

もくじ

ごあいさつ	1
製品バリエーション	3
事業概況	
懸架ばね部門	5
シート部門	6
精密ばね部門	7
産機・情報セキュリティ部門	8
海外部門・研究開発部門	10
決算情報	
単独情報	
貸借対照表	11
損益計算書	12
利益処分	12
連結情報(ご参考)	
連結貸借対照表	13
連結損益計算書	13
株式概況	14
役員・株価の推移	14
株主メモ・会社概要	裏表紙

当社第81期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、上半期の堅調な状況から一転し、下半期は米国経済の減速による影響を大きく受け、設備投資が減少に転じ、個人消費も停滞する中でデフレ懸念が台頭するなど、足踏みから弱含みの局面に入りました。

当社の主要な得意先の自動車産業は、上半期の買い替え需要の盛り上がりと下半期の新車効果により、国内販売は5,980千台で前年度比1.5%の増加となりました。一方、完成車輸出は上半期の米国向け輸出の増加などにより、4,376千台で前年度比0.8%の増加となりました。この結果、当期の国内生産台数は10,044千台で前年度比1.2%の増加となりました。

また、もう一方の主たる得意先の情報機器関連産業は、米国経済の減速に端を発した需要の大幅な落ち込みにより、厳しい事業環境となりました。

このような低迷した状況のもとで、当社は新製品の開発に全力を注ぐとともに一層の収益構造の改革に取り組みました。自動車分野においては新しい機能部品の開発、情報通信分野においては接合技術、セラミック加工技術および薄膜技術を用いた高機能部品の開発等を行いました。また、収益構造の改革につきましては、主力製品の販売価格の大幅な下落に対応するため、徹底した原価低減活動を展開いたしました。

以上のように、当社は不透明な経営環境のもとで活発な営業活動を展開いたしました。売上数量の伸び悩みと販売価格の低下の影響を受け、当期の売上高は154,397百万円で前年度比1.3%の増収にとどまりました。一方、収益面では、徹底した原価低減活動の展開により、経常利益は4,283百万円で前

年度比142.4%の増益となりました。当期利益は、退職給付会計の導入に関わる会計基準変更時差異の一括償却等により3,892百万円の損失となりました。

なお、当期末の利益配当金は、昨年12月にお支払いしました中間配当金と同じく1株につき3円といたしました。

今後のわが国経済は、景気の先行きに不透明感の漂う中で予断を許さない状況が続くものと思われま

す。このような状況のもとで、当社はユーザーに満足いただける製品をいち早く市場に投入するとともに、引き続き、原価低減活動の徹底を図ることにより、収益構造の改革を推進する所存であります。また、グループ各社の安定した経営基盤の確立と戦略的な連結経営の推進により、グループ価値の向上に努めるとともに、地球環境保護への取り組みを一層強化することにより、21世紀における飛躍を期しております。

株主の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年6月

取締役会長 前田次啓

取締役社長 佐々木謙二



取締役社長 佐々木謙二

取締役会長 前田次啓

ばね・シートから情報・産業機器までの ワイドバリエーション

トラック用板ばねの生産から事業を開始したニッパツ。自動車産業の成長とともに、生産品目もその種類と分野を広げ、自動車のいろいろな機能を支える製品を生産しております。

また、ニッパツの技術は自動車関連のみならず幅広いジャンルで活躍しております。マイクロメートル単位のメカニカルな部分を受け持つ精密ばね製品、IT（情報技術）の進展を支えるHDD（ハードディスクドライブ）用サスペンション、スペースを有効利用できる多段式駐車装置、さらにエレクトロニクス技術を駆使した情報セキュリティ製品など、いずれも常に新しいニーズに応え、あらゆる分野にその多彩な技術で貢献しております。

サイドエアバッグ付きシート

側面からの衝撃を緩和し、乗員を保護します。エアバッグをシートに内蔵しているため、シートのポジションに関係なく安全効果があります。



金属ベローズ製品

メンテナンスフリーかつ抜群の耐久性を備えた金属ベローズ製品群。ガススプリング、油圧アクチュエータなどとして多方面で活躍しています。



懸架ばね

高応力化により軽量化を図った各種懸架ばね。コンパクトなスペースにレイアウトできるたる形コイルばね。走行安定性と乗り心地向上に優れています。

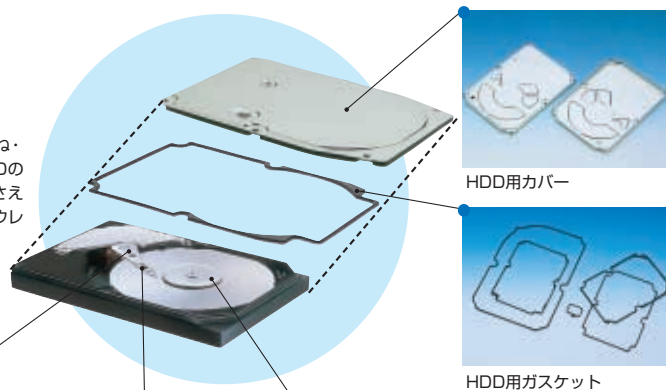


電動サンシェード

リヤウインドウ用で車内への直射日光を遮ります。開閉が自動で行える高級感のある製品です。

情報通信機器部品

情報通信機器には高い精度と品質をもつ精密ばね・プレス品、化成品が使われています。中でもHDDのヘッドを支持するサスペンションやディスクを押さえるクランプリング、ガスケット用の薄物シート状ウレタンなどは高い評価を得ています。



HDD用カバー



HDD用ガスケット



HDD用キャリッジ部品



HDD用サスペンション



HDD用クランプリング



駐車装置

駐車スペースを有効利用できる二段・多段式駐車装置です。ビルやマンションに広く使用されています。



線ばね

バルブスプリングやクラッチ用ばねなど車の多くの場所で使用されています。



スーパーシール・スーパーシート

当社独自の製造技術をベースとした特殊ウレタン製品です。防水、気密、吸音などの用途に幅広く利用されています。



キー・ビスカス

偽造防止効果の高い機械認識ホログラムを利用したビスカスは、警備機器などハイセキュリティ分野で使用されています。

懸架ばね部門

当部門は、優れた技術と生産体制により、市場において安定した評価と高いシェアを確保しております。当部門の強みは、北米、南米、欧州、東南アジア、台湾およびインドに12の合併会社を持ち、常に世界の市場で充分通用するトップレベルの技術力、開発力、品質管理体制を維持していることであります。

また、自動車の軽量化と性能向上ニーズに応えるため、新素材や高強度材料を開発し、高強度板ばね・高強度巻ばねなど、最新技術を駆使した高品質の製品を安定供給する生産体制を実現しております。

昨年8月に、米系自動車メーカー向けに量産を開始した「L形コイルばね」は、乗用車を中心とした乗り心地の改善に対して大きな効果があり、今後、数多くの採用が予定されております。

また、欧州市場で数多く採用されている「たる形コイルばね」については、横浜工場に生産設備を新設し量産体制を整備しました。

一方、懸架装置全般におけるシステム化の傾向は一層顕著になっており、その一環として、トラック用エアサスペンションの開発をはじめとして、乗用車のストラットモジュール(ばねとショックアブソーバーその他部品の複合化)への取り組みも積極的に行っております。

懸架装置以外の分野では、金属ペローズが心臓手術時に使用される血液温度調整器具に採用され、すでに量産を開始しておりますが、小型、低コストおよび医療用としての安全性確保の特長を持ち、ユーザーから高い評価をいただいております。

今後もさらに高度な技術を活かし、自動車の排気ガス対策、安全性向上への新製品などの開発に努めてまいります。

24.0%

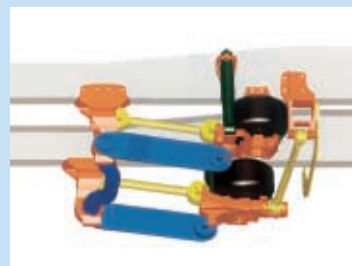
懸架ばね部門の売上高構成比

主な営業品目

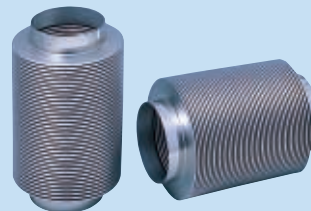
板ばね(金属・FRP)、巻ばね、スタビライザ、トーションバー、スタビライザリンク、ラジアスロッド、アキュムレータ、ガススプリング、サスペンションアーム



L形コイルばね



トラック用エアサスペンション



医療用ペローズ

シート部門

当部門は、徹底した品質管理と高い技術力があいまって、ユーザーに喜ばれる世界トップクラスの自動車用シートとサービスを提供しております。当部門の強みは、特定のカーメーカーの系列に属さず、国内各社の乗用車、商用車のシートをデザインから設計、生産、品質管理まで一貫したシステムで供給していることにあります。国内のみならず、北米、東南アジア、中国、台湾の海外7社の関連会社でも同様に、日系自動車メーカーを中心に高い評価を得ております。

また、自動車の快適な乗り心地・安全性向上・軽量化など、ユーザーのニーズにも応えております。

快適な乗り心地を追求した表皮一体成形シート、多機能なパワーシート、エアサスペンションシート、安全性を向上させた高強度両側ロックリクライナ付きシート、軽量化には軽量フレーム、薄型クッションパッドなどを実用化し、国内外の市場で高い評価と信頼を得て自動車メーカーに採用されております。



30.9%

シート部門の売上高構成比

さらに、衝突時にシートクッションの中のストッパーパイプが跳ね上がり、乗員の傷害を低減させるCRD（クッション・レストレイント・デバイス）をはじめ、乗員の安全確保のため、シートの新しい安全装置の開発が完了しております。

一方、自動車用内装分野では、リヤウインドウ用で車内への直射日光を遮る電動サンシェードが高級車に採用され、カーゴネット、トノカバーなど快適性向上を狙った製品もあわせて、市場の拡大に努めてまいります。

主な営業品目

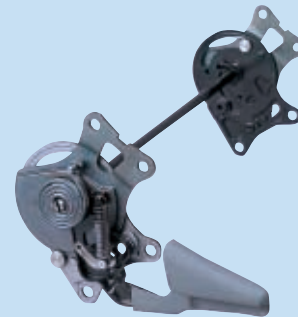
自動車用シート、シート用機構部品（リクライニング、安全部品）および内装品（サンシェード、トノカバー）



カーゴネット付きリヤシート



CRD（クッション・レストレイント・デバイス）



両側ロックリクライナ

精密ばね部門

当部門の精密ばね（線ばね、薄板ばね）およびその応用機能ユニットは、自動車、二輪車をはじめとして家電製品、コンピュータなどの情報通信機器にいたるまで、あらゆる分野の製品に組み込まれております。

これらの製品は、市場のニーズとたゆみない技術開発から生み出され、精度の高い材料・設計・加工技術を活かして生産され、国内外の市場で高い評価と信頼をいただいております。

中でも、HDD（ハードディスクドライブ）用サスペンションは、世界第2位の生産実績を誇っており、国内はもちろん海外のHDDメーカーに製品を供給しております。現在、HDDはますます高速化、大容量化しており、サスペンションには、より高精度と高品質が求められております。当部門は世界最先端の技術を凝縮したサスペンション「風魔」を開発し、市場に投入して好評を得ております。さらにHDD用部品のカバー、クランプリング、キャリッジ部品の生産の一部をタイの日本発

条(泰国)有限公司にて開始し、HDDの生産が多い東南アジアに供給できる生産体制を構築しております。

また、電子機器の検査に使用されているマイクロコンタクトは、その小型化、高機能化の要求に対して、世界最小と言われる微細ばねを使い、ますます細かいピッチで対応できるようになりました。

今後、さらに成長の見込まれる分野で応用製品の拡大に努めてまいります。

33.4%

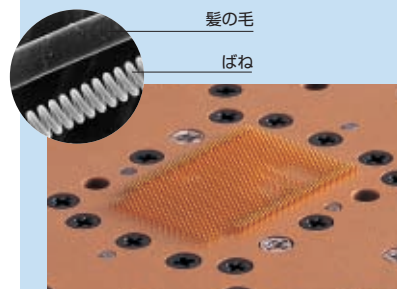
精密ばね部門の売上高構成比

主な営業品目

HDD用部品（サスペンションおよび機構部品）、線ばね、薄板ばね、液晶・半導体検査用プローブユニット、精密接合品、精密加工品、応用機能ユニット



風魔



マイクロコンタクト

産機・情報セキュリティ部門

(産機部門)

当部門は、当社のもつ各種技術を結びつけ、様々な分野のニーズに応える製品を提供しております。

プラント装置部門は、国内外に建設される発電所や石油・化学プラントに使用される配管支持装置を生産しております。また、需要が拡大しつつある半導体製造装置用の部品として、ろう付技術を利用した製品を生産しております。特に、当社独自の製造方法により生産するアルミ材質のろう付製品は、高

い評価をいただいております。

パーキング部門は、二段・多段式駐車装置をシリーズ化し、主にマンション向けに納入しております。当社の設計から施工、メンテナンスに至る総合技術は、業界から高い評価をいただいております。昨年10月には販売、施工、メンテナンス部門を分社化し、事業の強化を図りました。



ろう付製品



駐車装置

主な営業品目

(プラント)配管支持装置、ろう付製品
(パーキング)駐車装置
(化成品)ポリウレタン製品
(電子部品)プリント配線板
(情報セキュリティ)セキュリティシステム、警備端末機、カードリーダー、偽造防止システム、設計支援ソフトウェア

11.7%

産機・情報セキュリティ部門の売上高構成比

化成品部門は、防水機能を主とした特殊ウレタン製品を生産しており、自動車、家電、情報通信機器、建設分野など幅広い市場で高い評価をいただいております。中でも高密度薄物シート状ウレタンは、HDDガスケット用として受注量は拡大しております。また最近では、リサイクル性に優れたオレフィン系樹脂の発泡体を開発し、販売を開始いたしました。今後、自動車用内装材などの用途に売上を拡大してまいります。

電子部品部門は、金属ベースのプリント配線板を高度な品質管理のもとで一貫生産しております。鉄ベースのプリント配線板は、主に精密マイクロモータの回路基板として使用されております。また、アルミベースのプリント配線板は、放熱性や塑性加工性などの優れた特性を活かし、電源装置、自動車用電装装置などの用途に需要が拡大しております。



シール・シート製品



金属ベースプリント配線板

(情報セキュリティ部門)

当部門は、情報化社会の偽造防止ニーズに応えるため、当社独自に開発した機械認識によるセキュリティシステムを展開しております。

当期は、多発している株券偽造の防止対策としての株券偽造防止システム“IOSAS”(イオサス)を開発し、信託銀行へ納入いたしました。

本システムは、株券媒体に特殊なファイバーをすき込み、そのファイバーを専用センサーにて機械認識することにより、株券の真偽判定を高速かつ確実に、偽造券を発見排除するシステムであります。

また、最近、多発している高級ブランド品や工業製品の偽造品対策として、特殊な光学特性を用いたホログラムシステム“CPLgram”(シーピーエルグラム)を開発し、営業展開を行っております。

現在、流通している偽造品は、大変精巧にできており、目視判別が難しくなっております。目視による真贋判定としてのホログラムシールが貼付されている製品もありますが、現状では、このホログラム自体が偽造されており、目視では真贋判定できない状態にあります。

今回、開発した“CPLgram”はこのホログラムの偽造対策が施しており、目視判定だけでなく、簡単なハンディツールやセンサーを用いた機械認識にも対応した画期的な偽造防止シールであり、様々な分野での導入検討が行われております。



IOSAS認証装置



CPLgram(シーピーエルグラム)



ファイブクリプト製品

海外部門

当部門は、海外進出先での経済発展への貢献、地域社会との融合を基本理念として積極的に事業を展開してまいりました。

当期の主な活動としては、インドの合併会社ジャムナNHKアルパールサスペンション社が新工場での巻ばね生産を開始し、現地有力自動車メーカーへ昨年4月から本格的に納入を開始しました。

北米においては、好景気を背景とする懸架ばね受注量拡大に対応するため、ニューメーサーメタルス社とNHKアソシエイテッドスプリングサスペンションコンポーネンツ社で、それぞれ設備拡張に着手しました。さらに、懸架ばねの開発拠点であるNHKインターナショナル社R&Dセンターが昨年12月から稼働を開始しました。

今後も、ユーザーへの世界最適供給を実現するため、当社の11ヵ国25社の海外拠点をフルに活用し対応してまいります。



NHKインターナショナル社R&Dセンター

研究開発部門

当部門は、次世代のニーズに基づいた新しい事業分野の開拓を目指して、基盤技術から新製品に至るまでの開発を積極的に推進しております。

情報通信分野では、光導波路技術をベースとした光通信部品、セラミック加工技術をベースとしたセラミック精密部品、また、接合技術を用いた半導体装置関連の製造装置部品を開発し、事業化を目指した活動を進めております。さらに、高周波回路技術、メカトロニクス技術に基づいて、ITS(高度道路交通システム)関連商品、万引防止用タグに使用する磁性ワイヤーなどの商品開発も行っております。

環境分野では、空気冷凍機「エアーズ」、金属細線による燃焼バーナー用マット、リサイクル可能な自動車用シートクッション材などの商品開発を行っております。

また、金属材料技術、高分子材料技術、精密塑性加工技術および各種解析ソフトの基礎研究にも取り組んでおります。



ウェハ(光導波路チップ)と光通信部品

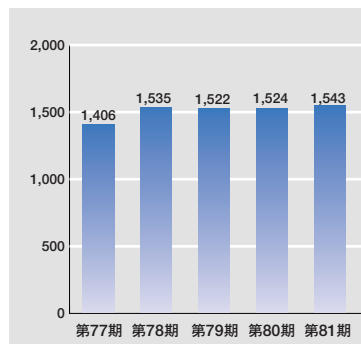
単独情報

貸借対照表

(単位：百万円)

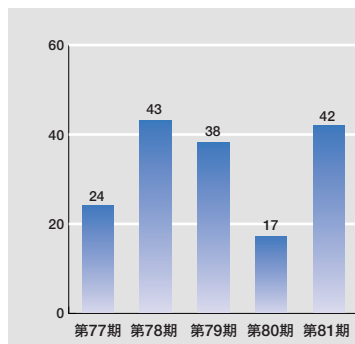
科 目	第81期	第80期
	平成13年3月末	平成12年3月末
(資産の部)	177,490	179,765
流動資産	72,708	71,627
現金及び預金	5,262	7,547
受取手形・売掛金	42,884	44,786
有価証券	3,597	2,998
棚卸資産	8,037	8,423
繰延税金資産	1,074	591
その他	12,063	7,504
貸倒引当金	△214	△224
固定資産	104,782	108,138
有形固定資産	64,928	70,206
建物・構築物	26,215	27,236
機械装置	22,426	25,026
土地	11,812	11,821
建設仮勘定	1,587	2,913
その他	2,885	3,208
無形固定資産	661	240
投資等	39,192	37,691
投資有価証券	25,401	23,155
子会社株式	10,131	10,263
その他	3,816	4,328
貸倒引当金	△155	△55
資産合計	177,490	179,765

科 目	第81期	第80期
	平成13年3月末	平成12年3月末
(負債の部)	117,995	120,255
流動負債	65,874	69,044
支払手形・買掛金	36,727	33,138
短期借入金	17,446	20,299
一年内償還社債	—	5,000
その他	11,700	10,606
固定負債	52,121	51,211
社債	13,000	13,000
長期借入金	23,285	26,781
退職給与引当金	—	11,000
退職給付引当金	15,579	—
繰延税金負債	256	428
(資本の部)	59,494	59,509
資本金	17,009	17,009
法定準備金	20,496	20,343
資本準備金	16,942	16,942
利益準備金	3,553	3,400
剰余金	16,583	22,156
任意積立金	5,051	16,533
当期末処分利益	11,531	5,622
(うち当期利益(△損失))	(△3,892)	(1,200)
評価差額金	5,405	—
負債及び資本合計	177,490	179,765



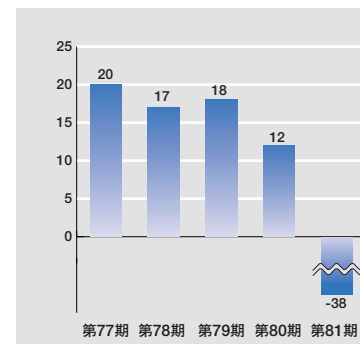
売上高

(億円)



経常利益

(億円)



当期利益

(億円)

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第81期	第80期
	平成12年4月～ 平成13年3月	平成11年4月～ 平成12年3月
売上高	154,397	152,443
売上原価	135,140	133,960
販売費及び一般管理費	14,600	16,481
営業利益	4,656	2,000
営業外収益	1,770	2,498
営業外費用	2,144	2,732
経常利益	4,283	1,767
特別利益	7,759	606
特別損失	18,945	790
税引前当期利益(△損失)	△ 6,901	1,583
法人税、住民税及び事業税	1,560	1,230
法人税等調整額	△ 4,569	△ 847
当期利益(△損失)	△ 3,892	1,200
前期繰越利益	16,229	2,281
過年度税効果調整額	—	△ 684
税効果会計適用に伴う 圧縮積立金等取崩額	—	3,630
中間配当額	732	732
利益準備金積立額	73	73
当期末処分利益	11,531	5,622

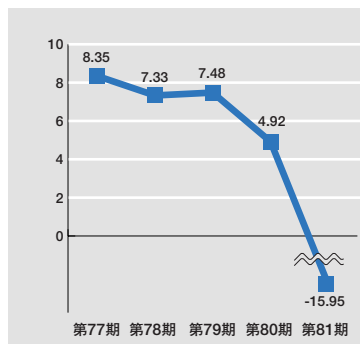
利益処分

(単位：百万円)

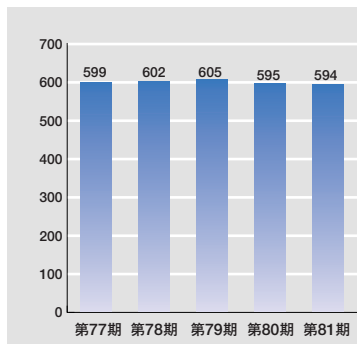
科 目	第81期	第80期
	平成13年3月期	平成12年3月期
当期末処分利益	11,531	5,622
任意積立金取崩額	181	11,709
計	11,713	17,332
利益処分量		
利益準備金	80	79
利益配当金	732	732
役員賞与金	70	63
(うち監査役分)	(8)	(7)
任意積立金	16	228
計	898	1,102
次期繰越利益	10,814	16,229

単独情報コメント

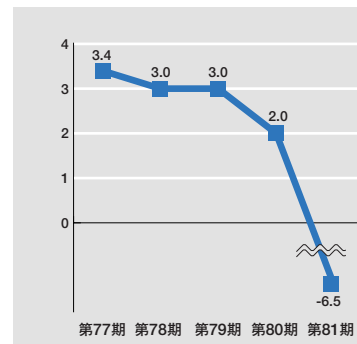
第81期の当期利益は、特別利益として保有投資有価証券の退職給付信託設定益6,807百万円を計上いたしました。特別損失として退職給付会計基準変更時差異の一括費用処理13,588百万円及び金融商品会計の導入に伴い投資有価証券評価損3,921百万円を計上したため、対前期比大幅減益となっています。



EPS (一株あたりの当期利益) (円)



株主資本 (億円)



ROE (株主資本利益率) (%)

連結情報 (ご参考)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第81期	第80期
	平成13年3月末	平成12年3月末
流動資産	116,460	110,519
固定資産	146,843	150,534
為替換算調整勘定	—	4,381
資産合計	263,304	265,435
流動負債	113,280	115,098
固定負債	67,068	63,946
負債合計	180,348	179,044
少数株主持分	7,853	8,158
資本金	17,009	17,009
資本準備金	16,942	16,942
再評価差額金	39	215
連結剰余金	37,631	44,065
その他有価証券評価差額金	6,017	—
為替換算調整勘定	△ 2,538	—
資本合計	75,101	78,232
負債、少数株主持分及び資本合計	263,304	265,435

連結情報コメント

第81期の当期純利益は、特別利益として保有投資有価証券の退職給付信託設定益6,058百万円を計上いたしました。特別損失として退職給付会計基準変更時差異の一括費用処理16,663百万円及び金融商品会計の導入に伴い投資有価証券評価損2,999百万円を計上したため、対前期比大幅減益となっています。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第81期	第80期
	平成12年4月～平成13年3月	平成11年4月～平成12年3月
売上高	254,922	240,800
売上原価	215,733	204,719
販売費及び一般管理費	28,719	30,394
営業利益	10,469	5,687
持分法による投資利益	1,065	1,492
その他営業外収益	1,694	1,712
営業外費用	3,342	4,491
経常利益	9,886	4,399
特別利益	7,364	730
特別損失	23,068	1,673
税金等調整前当期純利益(△損失)	△ 5,817	3,457
法人税、住民税及び事業税	3,410	2,608
法人税等調整額	△ 5,836	△ 1,098
少数株主利益	69	301
当期純利益(△損失)	△ 3,461	1,645

株式の状況

(平成13年3月31日現在)

発行する株式の総数	600,000,000株
発行済株式総数	244,066,144株
株主総数	22,640名

大株主

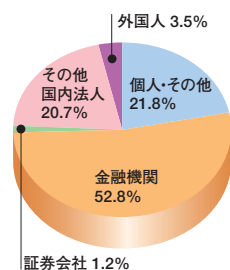
(平成13年3月31日現在)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
三菱信託銀行(株) <small>(退職給付信託口・大同特殊鋼(株)口)</small>	30,892	12.7
日商岩井(株)	19,029	7.8
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	9,767	4.0
(株)神戸製鋼所	9,505	3.9
(株)第一勧業銀行	8,817	3.6
(株)横浜銀行	7,406	3.0
日商岩井保険サービス(株)	6,432	2.6
(株)三和銀行	6,395	2.6
年金信託受託者中央三井信託銀行(株)2口	6,059	2.5
三菱信託銀行(株)(信託口)	4,537	1.9

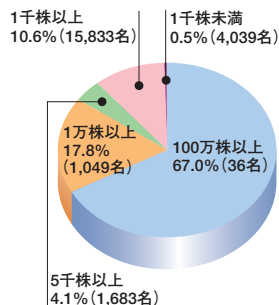
株式の分布状況

(平成13年3月31日現在)

所有者別株数比率



所有数別株数比率



中間配当

平成12年11月24日開催の取締役会の決議に基づき、同年12月8日、1株につき3円の間配当を実施いたしました。

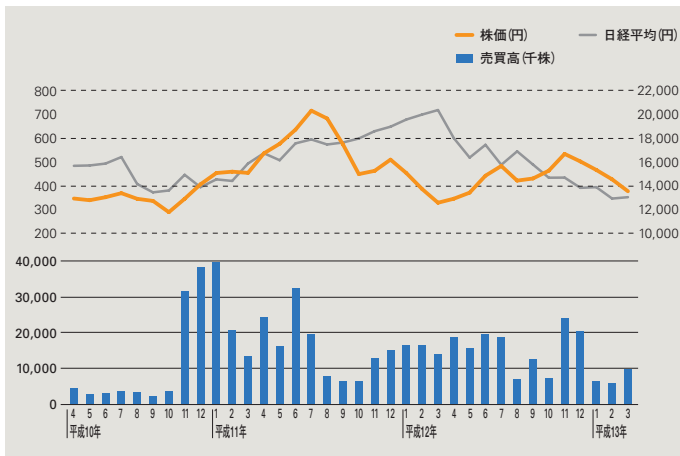
取締役・監査役

(平成13年3月31日現在)

取締役会長	前田次啓
取締役社長	佐々木謙二
取締役副社長	石川康宏
取締役副社長	河村公二
専務取締役	宮田忠男
専務取締役	稲葉恒夫
常務取締役	兵頭洋
常務取締役	峰岸甫
常務取締役	鈴木啓一
常務取締役	藤田一彦
常務取締役	天木武彦
常務取締役	池田勝一
常務取締役	関根正光
取締役	吉田英穂
取締役	猪原一雄

取締役	光武紀芳
取締役	石川隆重
取締役	長澤國雄
取締役	重岡巖
取締役	布施武
取締役	中村功
取締役	天野一敏
取締役	佐々木晃一
取締役	山口努
取締役	升谷治樹
常勤監査役	中村佐千夫
常勤監査役	野口昌美
監査役	大館隆
監査役	草道昌武

当社株価・売買高の推移



株主メモ

1. 基準日	毎年3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします
2. 配当金受領株主確定日	毎年3月31日および中間配当を行う場合は9月30日
3. 名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 東洋信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 東洋信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱所 (お問い合わせ先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 東洋信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03)5683-5111(代表)
同取次所	東洋信託銀行株式会社 全国各支店
4. 公告掲載新聞	日本経済新聞

会社概要

(平成13年5月31日現在)

設立	昭和14年(1939年)9月8日
資本金	170億円
従業員数	3,939名
本社	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3丁目10番地 電話 (045)786-7511
分館・分室	東京分館／横浜分室
支店	北関東／浜松／名古屋／大阪／広島
営業所	福岡／熊本
工場	横浜／群馬／太田／厚木／伊勢原／伊那／駒ヶ根／豊田／滋賀／野洲
海外事務所	イギリス／スペイン
国内関連会社	27社
海外関連会社	25社